

中学生の衣生活・独自性・生活満足度に関する実態分析

孫 珠熙 (孫 珠熙)¹ 村田 奈緒子²

An Analysis of Junior High School Students' Clothing Life, Individuality, and Degree of Satisfaction in Life

*Ju-hee SOHN、**Naoko MURATA

概要

本研究の目的は、多感な時期である中学生に焦点を当て、現代の男女中学生の「生活満足度(7項目、多重回答)」の傾向や「衣生活(30項目、6件法)」と「独自性(22項目、6件法)」の実態を検討した。中学2・3年生641名(男子358名、女子283名)を分析対象とし、性別の特徴を検討した。「衣生活」について男子は2因子「衣服の選択」「機能性」、女子は3因子「衣服の選択」「衣服の手入れ」「衣服着用時の感情」が得られた。また、衣生活30項目中16項目($p < 0.001$)、5項目($p < 0.01$)、5項目($p < 0.05$)の計26項目に有意差がみられた。一方、「独自性」については22項目中3項目($p < 0.001$)、1項目($p < 0.01$)、3項目($p < 0.05$)のみの計7項目に有意差がみられた。また、「独自性」との関連をみても自己肯定である生徒ほど「生活満足度」とが高く、積極的・自己肯定である生徒ほど「衣生活」の自立にも正の相関があることが明らかになった。

キーワード：衣生活、生活満足度、独自性、中学生

Keywords : clothing life, satisfaction in life, individuality, junior high school students

1. 緒言

中学校の学習指導要領によると、技術・家庭科の履修内容の一つである「衣服の選択と手入れ」では、衣服と社会生活とのかかわりを理解し目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できるようになること、衣服の計画的な活用の必要性を理解し適切な選択ができるようになること、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができるようになることが学習のねらいとされている。

この「衣服の選択と手入れ」の学習における、小学校家庭科の教科書と中学校技術・家庭科の教科書を見てみると、衣服の着方の工夫に関して、小学校では保健衛生上の着方と生活活動上の着方に重点を置いて考えさせるが、中学校では社会生活上の機能を中心に理解し、時・場所・場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用の工夫ができるようにすることを目指していることが読み取れる。

小学生から中学生までの子どもは、発達段階によって衣服の着用に対する意識も大きく変わっていく。特に近年、多くの中学生がそれぞれのファッションを装うようになったように感じる。テレビやファッション雑誌、新しい情報ツール(SNS)等のさまざまなメディアにより、多方面からファッションが発信されている。そして中学生は、自分の感性にこだわりをもち、周囲の人からどう

見られるかということに極端に気にするようにもなる時期である。

新しい情報ツール(SNS)はスマートフォン(2004年)、Twitter(2008年4月日本語版開始)、LINE(2011年6月開始)、Instagram(2014年2月日本語版開設)などがある。

中学生の衣生活に関するこれまでの先行研究では、衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析(東京都、新潟県、佐賀県の中学生を対象)¹⁾、家庭科着学習における自己表出の在り方の検討(広島県の中学生及び高校生を対象)²⁾などがある。一方で、富山県の中学生の被服行動に関する実態調査はあまりされていない。

本研究では、多感な時期である中学生に焦点を当て現代の中学生の生活満足度の傾向や衣生活と独自性について探ることを目的とする。学習者である中学生の現実的な実態を把握することによって、中学校の家庭科の教員が実態に応じた適正な指導過程の考案や計画を実現させることができ、学習者の中学生にとって意味のある衣生活の学習の充実につながるのではないかと考えた。

¹ 富山大学人間発達科学部環境社会デザインコース ² 富山大学人間発達科学部環境社会デザインコース (卒業)

II. 研究方法

2-1 調査時期と調査対象者

富山県の公立中学生男女 335 名、私立中学生男女 306 名の計 641 名を対象に質問紙調査を行った。調査時期は 2017 年 10 月である。公立中学校 2 校、国立中学校 1 校を対象としているため、学校間の比較も行っている。

2-2 研究の枠組み

現行「学習指導要領」の『B 衣食住の生活』では「(4) 衣服の選択と手入れ」の中から教科書「衣服を選ぼう(衣服の選択)」及び「衣服の手入れと補修」の小単元を、検討対象とし、教科書の記述から「衣生活」に関する測定尺度項目を作成した。

本研究では、家庭科の教科書³⁾や 2016 年度に実施した調査の結果⁴⁾をもとに質問項目を独自で作成している。質問内容の測定尺度は『生活の満足度 7 項目、複数回答』『衣生活の自立 (30 項目、6 件法)』、『自分自身の性格や意識 (独自性: 22 項目、6 件法)』を研究の枠組みとした。「独自性」の尺度に関しては先行研究^{5), 6)}を参考とした。

フェースシートに関する項目は『身長』、『ひと月のお小遣い』、『携帯電話の有無』、『成績』、『現在満足していると感じるもの』である。

『現在満足していると感じるもの』は、「お金」、「容姿」、「学校」、「友人関係」、「成績」、「制服」、「体型」の 7 つの項目を用い、満足していると感じるものを複数回答してもらった。

2-3 分析方法

データの集計・分析には、各項目を 6 件法「あてはまる (6 点)」、「ややあてはまる (5 点)」、「わずかにあてはまる (4 点)」、「わずかにあてはまらない (3 点)」、「ややあてはまらない (2 点)」、「あてはまらない (1 点)」で評定を求めた。

統計解析は IBM SPSS Statistics 23.0J を用いて、単純集計やクロス集計、平均値の差の検定 (t 検定)、因子分析を行った。自由記述データの統計解析には IBM SPSS Text Analytics for Surveys 4.0.1 を用いた。被験者には倫理基準に基づいて、無記名に回答してもらった。

III. 結果及び考察

3-1 調査対象者の基本属性

調査対象者の基本属性を表 1、表 2 に示す。調査対象者は富山県の中学生 (男子 358 名、女子 283 名) 計 641 名である。学校は特定の学校に偏らないよう配慮した。

表 1 調査対象者の基本属性 (男子中学生)

	2 年生 N (%)	3 年生 N (%)	合計 N (%)
T 中学校 (国)	94(26.3%)	84(23.5%)	178(49.8%)
S 中学校 (公)	69(19.3%)	56(15.6%)	124(34.7%)
K 中学校 (公)	36(10.0%)	19(5.3%)	55(15.5%)
合計	199(55.6%)	159(44.4%)	358(100%)

表 2 調査対象者の基本属性 (女子中学生)

	2 年生 (N)	3 年生 (N)	計
T 中学校 (国)	59(20.8%)	69(24.4%)	128(45.2%)
S 中学校 (公)	66(23.3%)	52(18.4%)	118(41.7%)
K 中学校 (公)	25(8.9%)	12(4.2%)	37(13.1%)
合計	150(53%)	133(47%)	283(100%)

3-2 身長

中学生の身長について調査した。平均身長を表 3 に示す。身長については自己申告の身長を答えてもらった。身長が最も低かったのが男子は 140cm、女子は 141cm であった。また、最も高かったのが男子は 198cm、女子は 173cm であった。男子中学生の身長の平均は、公立中学は 165.9cm で国立中学は 166.7cm であった。女子中学生の身長の平均は、公立中学は 156.7cm で国立中学では 156cm であった。以上のことより、公国間で平均身長に大きな差はなかった。

表 3 男女中学生の身長 (単位 cm)

	公立	N	国立	N
男子	165.9	174	166.7	177
女子	156.7	154	156.0	128

3-3 ひと月のお小遣い

中学生のひと月のお小遣いの額を調査した。最低額は 100 円であり、最高額は 30,000 円であった。平均額を表 4 に示す。男子中学生のひと月のお小遣いの平均額は、公立中学が 2,530 円、国立中学が 2,715 円であった。女子中学生のひと月のお小遣いの平均額は、公立中学が 1,758 円、国立中学が 3,008 円であった。男子では、公私間であまり差が見られなかったが、女子は、公立中学よりも国立中学のほうがお小遣いの平均額が約 1,200 円も高い。

表 4 中学生のひと月のお小遣い

	公立 (円)	N	国立 (円)	N
男子	2530	111	2715	146
女子	1758	88	3008	109

3-4 携帯電話の有無

中学生の携帯電話の有無について、持っているか持っていないかを択一回答してもらった。結果を表 5、表 6 に示す。全体で見ると公立中の 53.1%、国立中の 70.4%

表5 携帯電話の有無 (公立中学)

	有	無	計
男子	84(47.2%)	94(52.8%)	178(100%)
女子	89(60.1%)	59(39.9%)	148(100%)
計	173(53.1%)	153(46.9%)	326(100%)

表6 携帯電話の有無 (国立中学)

	有	無	計
男子	113(65.3%)	60(34.7%)	173(100%)
女子	98(77.2%)	29(22.8%)	127(100%)
計	211(70.4%)	89(29.6%)	300(100%)

表7 成績 (公立中学)

クラス	上位 20% 以内	上位 21 ~ 50% 以内	上位 51% 以下	計 N(%)
男子	45(13.7%)	64(19.8%)	70(21.6%)	179(55.1%)
女子	30(9.3%)	74(22.9%)	41(12.7%)	145(44.9%)
計	75(23.0%)	138(42.7%)	111(34.3%)	324(100%)

表8 成績 (国立中学)

クラス	上位 20% 以内	上位 21 ~ 50% 以内	上位 51% 以下	計
男子	43(18.2%)	51(21.6%)	50(21.2%)	144(61.0%)
女子	16(6.8%)	29(12.3%)	47(19.9%)	92(39.0%)
計	59(25.0%)	80(33.9%)	97(41.1%)	236(100%)

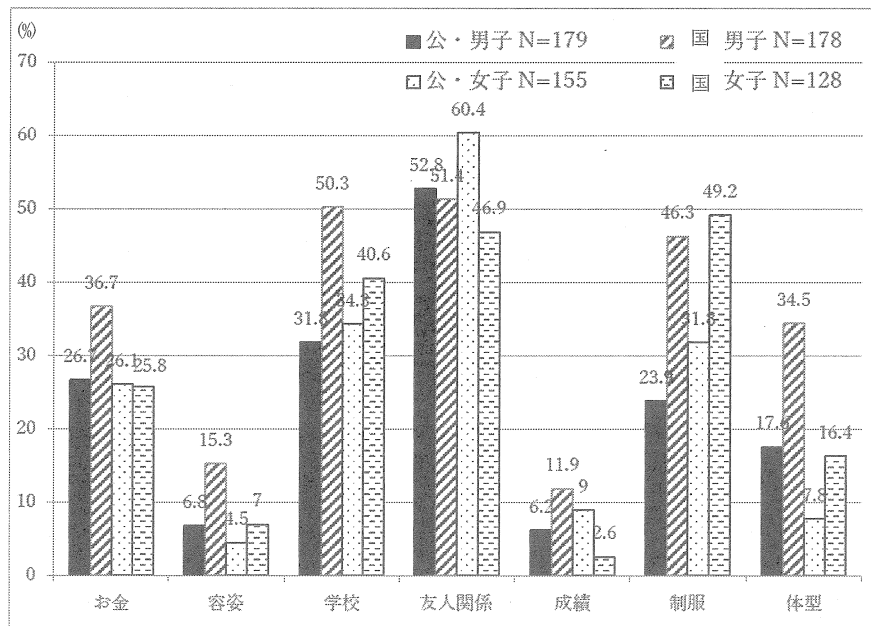


図1 生活満足度 (お金・容姿・学校生活・友人関係・成績・制服・体型)

の生徒が携帯を持っている。

3-5 成績

中学生の成績を表7、表8に示す。以下の結果と、衣生活の項目、独自性の項目との相関を調査する。

性別の人数は異なるが、成績順位は男女込みの割合を分析した。成績に関しては13%程の欠損値が多く発生した。

3-6 生活満足度 (お金・容姿・学校生活・友人関係・成績・制服・体型)

中学生が現在満足しているものについて、複数回答してもらった結果を図1に示した。中学生が最も満足感を感じているのは、公立男子、国立男子、公立女子では「友

人関係」であり、公立男子が52.8%、国立男子が51.4%、公立女子が60.4%であった。一方、最も満足感が低かったのは、公立男子、国立男子、国立女子では「成績」であり、公立男子が6.2%、国立男子が11.9%、国立女子が2.6%であった。

公国で比較すると、公立中学より国立中学のほうが「制服」に満足を感じており、公立男子が23.9%、公立女子が31.8%であるのに対し、国立男子が46.3%、国立女子が49.2%であった。

3-7 中学生における「衣生活」の自立について (男女間の平均値の差の検定結果)

男女中学生の衣生活の項目の平均値とt検定の結果を

表9に示す。最も平均値が高かった項目は、男女ともに「05 自分の着る衣服のサイズを知っている」であった。一方、最も平均値が低かった項目は、男女ともに「25 いらなくなった衣服はフリーマーケットやネットで売る」であった。

男子のほうが女子よりも平均値が高く、0.1%水準で有意な差がみられた項目は、「19 動きやすい衣服を着るほうだ」1項目であった。次いで「17 衣服を着るとき、季節感を気にしないほうだ」、「18 保温性や通気性のすぐれた衣服を着るほうだ」2項目は5%水準で有意な差が見られた。以上により男子中学生は、衣服に動きやすさや保温性、通気性を求めることから、機能性を重視しているということが示唆された。さらに、女子に比べて、衣服を着るときに季節感を気にしておらず、あまり見た目にこだわっていないということが考えられる。

一方、女子のほうが男子よりも平均値が高く、有意差の大きい項目は、「01 衣服を購入する時、売り場のマネキンを参考にするほうだ」、「02 衣服を購入する時、雑誌を参考にするほうだ」、「03 衣服を購入する時、店員のアドバイスを参考にするほうだ」、「04 衣服を購入する時、流行を重視するほうだ」、「05 自分の着る衣服のサイズを知っている」、「07 私服で友達とおそろいの衣服を着ると気持ちの共有ができる」、「09 どのようなファッションが流行しているか知っているほうだ」、「10 多くの洋服店を見てまわるほうだ」、「11 流行の衣服を着るほうだ」、「12 ファッション雑誌をよく読むほうだ」、「13 個性のある衣服を着て、自分らしさを表現したい」、「16 時、場所、場面に合わせて自分が着るものを考えるほうだ」、「24 ボタンつけやほつれ直しなど、衣服の補修ができる」、「28 いらなくなった衣服は、そ

表9 「衣生活」の自立についての質問項目（平均値の差の検定結果：性別）

30 質問項目「中学生における衣生活の自立」	男子 (N=358)		女子 (N=283)		t 値	p
	平均値	SD	平均値	SD		
01 衣服を購入する時、売り場のマネキンを参考にするほうだ。	2.13	1.53	3.24	1.75	-8.42	***
02 衣服を購入する時、雑誌を参考にするほうだ。	1.67	1.21	3.10	1.92	-11.26	***
03 衣服を購入する時、店員のアドバイスを参考にするほうだ。	2.34	1.68	2.85	1.71	-3.71	***
04 衣服を購入する時、流行を重視するほうだ。	1.95	1.33	3.28	1.74	-10.75	***
05 自分の着る衣服のサイズを知っている。	5.09	1.32	5.44	1.02	-3.59	***
06 制服や部活動のユニフォームを着ると団結力が増す。	4.19	1.76	4.33	1.62	-0.29	
07 私服で友達とおそろいの衣服を着ると気持ちの共有ができる。	2.49	1.71	3.63	1.87	-7.87	***
08 好きな衣服を着ると、その日は自信がもてる。	3.20	1.80	4.24	1.66	-6.77	*
09 どのようなファッションが流行しているか知っているほうだ。	1.95	1.43	3.53	1.78	-12.16	***
10 多くの洋服店を見てまわるほうだ。	2.17	1.57	3.92	1.87	-12.63	***
11 流行の衣服を着るほうだ。	1.82	1.27	3.19	1.68	-11.47	***
12 ファッション雑誌をよく読むほうだ。	1.39	0.97	2.86	1.93	-12.18	***
13 個性のある衣服を着て、自分らしさを表現したい。	2.32	1.62	3.24	1.74	-6.81	***
14 安い衣服を買いたい。	3.90	1.70	4.05	1.56	-1.18	
15 多少高くても、品質の良い衣服を買いたい。	3.77	1.64	4.17	1.47	-3.16	*
16 時、場所、場面に合わせて自分が着るものを考えるほうだ。	4.31	1.65	5.01	1.26	-5.82	***
17 衣服を着る時、季節感を気にしないほうだ。	3.09	1.76	2.75	1.61	2.45	*
18 保温性や通気性のすぐれた衣服を着るほうだ。	4.43	1.51	4.16	1.38	2.24	*
19 動きやすい衣服を着るほうだ。	4.90	1.33	4.46	1.40	3.96	***
20 選択絵表示を見て、洗濯をするほうだ。	2.77	1.77	3.14	1.84	-2.49	*
21 自分の衣服を自分で洗濯することができる。	3.82	1.83	4.20	1.79	-2.63	**
22 衣服は、自分でたたんだり、ハンガーにかけたりして保管している。	4.26	1.74	4.64	1.62	-2.76	**
23 自分が持っている衣服の種類、およその枚数がわかる。	3.57	1.88	3.76	1.79	-1.27	
24 ボタンつけやほつれ直しなど、衣服の補修ができる。	2.99	1.81	3.94	1.80	-6.39	***
25 いらなくなった衣服は、フリーマーケットやネットで売る。	1.62	1.17	1.99	1.51	-2.97	**
26 いらなくなった衣服は、衣服の生地で何かを作る。	1.72	1.33	2.14	1.62	-3.15	**
27 いらなくなった衣服は捨てる。	3.47	1.93	3.53	1.80	-0.35	
28 いらなくなった衣服は、そのままおいておく。	2.70	1.71	3.18	1.74	-3.42	***
29 今後いらなくなった衣服は、フリーマーケットやネットで売りたい。	2.68	1.87	3.15	1.90	-3.10	**
30 今後いらなくなった衣服は、衣服の生地で何かを作りたい。	2.38	1.74	3.06	1.89	-4.59	***

*:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

のままおいておく」、「30 今後いらなくなった衣服は、衣服の生地で何か作ってみたい」であり、0.1%水準で有意な差がみられた。

すなわち、女子は男子に比べ衣服を購入する時、マネキンや雑誌、店員のアドバイスといったように様々なものを参考にしているということがわかる。また、男子よりも流行に敏感であり、ファッション雑誌を読んだり、衣服を購入する時に流行を取り入れたりしていることがわかる。さらに、男子よりも衣服の補修ができたり衣服の生地で何かを作りたいという気持ちがあったりすることから、男子よりも裁縫に自信があるのではないかと考えられる。有意差のあった項目には平均値に網掛で示した(表9)

3-8 男子中学生の「衣生活」の自立に関する因子分析結果

男子中学生の衣生活を総合的に見るため因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行った結果を表10に示す。天井効果とフロア効果のある項目は、尺度項目としてあまり適切とは言えないため削除した。

第1因子は、「11 流行の衣服を着るほうだ」、「12 ファッション雑誌をよく読むほうだ」、「09 どのようなファッションが流行しているか知っているほうだ」、「02 衣服を購入する時、雑誌を参考にするほうだ」、「10 多くの洋服店を見てまわるほうだ」、「13 個性のある衣服を着て、自分らしさを表現したい」、「01 衣服を購入する時、売り場のマネキンを参考にするほうだ」、「08 好きな衣服を着ると、その日は自信がもてる」、「03 衣服を購入する時、店員のアドバイスを参考にするほうだ」

の9項目で構成されており、『衣服の選択』を表す因子と解釈した。

第2因子は、「18 保温性や通気性のすぐれた衣服を着るほうだ」、「19 動きやすい衣服を着るほうだ」、「15 多少高くても、品質の良い衣服を買いたい」、「16 時、場所、場面に合わせて自分が着るものを考えるほうだ」の4項目で構成されており、『衣服の機能性』を表す因子と解釈した。累積寄与率は47.65%であった。

3-9 女子中学生の「衣生活」の自立に関する因子分析結果

次に、女子中学生の衣生活を総合的に見るため因子分析(最尤法、プロマックス回転)を行った結果を表11に示す。第1因子は「11 流行の衣服を着るほうだ」、「09 どのようなファッションが流行しているか知っているほうだ」、「04 衣服を購入する時、流行を重視するほうだ」、「12 ファッション雑誌をよく読むほうだ」、「10 多くの洋服店を見てまわるほうだ」、「08 好きな衣服を着ると、その日は自信がもてる」の6項目で構成されており、『衣服の選択』を表す因子と解釈した。

第2因子は、「22 自分の衣服は、自分でたたんだり、ハンガーにかけたりして保管している」、「23 自分が持っている衣服の種類、およその枚数がわかる」、「24 ボタンつけやほつれ直しなど、衣服の補修ができる」、「16 時、場所、場面に合わせて自分が着るものを考えるほうだ」の4項目で構成されており、『衣服の手入れ』を表す因子と解釈した。

第3因子は、「07 私服で友達とおそろいの衣服を着ると、その日は自信がもてる」、「06 制服や部活動のユ

表10 中学生の「衣生活」の因子分析(男子 N=358)

中学生の衣生活について、男子のみ(13項目)	因子負荷量	
	I	II
11 流行の衣服を着る	.866	-.055
12 ファッション雑誌をよく読む	.848	-.240
09 流行しているファッションを知っている	.804	-.023
02 雑誌を参考にする	.782	-.169
10 多くの洋服店を見て回る	.748	.050
13 個性のある衣服を着て自分らしさを表現したい	.565	.176
01 マネキンを参考にする	.553	.061
08 好きな衣服を着ると自信がもてる	.508	.237
03 店員のアドバイスを参考にする	.455	.226
18 保温性や通気性のすぐれた衣服を着る	-.081	.699
19 動きやすい衣服を着る	-.199	.608
16 T.P.O.に合わせて衣服を選ぶ	.224	.529
15 品質の良い衣服を買いたい	.315	.462
累積寄与率(%)	36.351	47.647
I 衣服の選択	1.000	.242
II 機能性		1.000

最尤法、プロマックス回転

表 11 中学生の「衣生活」の因子分析 (女子 N=283)

中学生の「衣生活」について 女子のみ (12項目)	因子負荷量		
	I	II	III
11 流行の衣服を着る	.983	-.123	-.035
04 流行を重要視する	.886	-.169	.016
09 流行しているファッションを知っている	.874	.074	-.048
12 ファッション雑誌をよく読む	.720	-.029	.026
10 多くの洋服店を見て回る	.572	.242	.049
08 好きな衣服を着ると自信がもてる	.347	.143	.273
22 自分の衣服は自分でたたみハンガーに干す	-.051	.632	.084
23 自分の持っている衣服を把握している	-.043	.615	-.027
24 衣服の補修ができる	-.051	.557	-.005
16 T.P.O. に合わせて衣服を選ぶ	.348	.403	-.035
07 おそろいの衣服を着ると気持ちの共有ができる	.040	-.114	.983
06 制服やユニフォームを着ると団結力が増す	-.022	.162	.486
累積寄与率 (%)	28.138	43.718	53.771
I 衣服の選択	1.000	.360	.588
II 衣服の手入れ		1.000	.220
III 衣服着用時の感情			1.000

最尤法、プロマックス回転

表 12 「中学生の自分自身の意識・性格 (独自性)」の平均値の差の検定 (性別)

「中学生の独自性」22項目	男子 (N=358)		女子 (N=283)		t 値	p
	平均値	SD	平均値	SD		
01 変化への欲求が強いほうである。	3.46	1.74	3.95	1.51	-3.66	***
02 好奇心が強いほうである。	4.48	1.50	4.74	2.22	-1.70	
03 古いものよりは新しいものを使いたいと思う。	4.63	1.53	4.69	1.38	-0.45	
04 自尊心 (プライド) が人一倍強いと思う。	3.50	1.61	3.80	1.44	-2.36	*
05 自分のことを認めてもらいたいと思う。	4.18	1.60	4.32	1.51	-1.13	
06 他人からの評価が気になるほうである。	4.30	1.54	4.42	1.55	-0.91	
07 人に見られているとかっこうつけてしまうほうである。	2.91	1.55	3.28	1.54	-2.97	**
08 自分の容姿を気にするほうである。	3.41	1.65	4.19	1.58	-5.86	***
09 引っ込み思案である。	3.26	1.67	3.57	1.71	-2.28	*
10 誰からも嫌われたくない。	4.07	1.75	3.99	1.69	0.58	
11 積極的に意見を述べるほうである。	3.32	1.73	3.26	1.63	0.46	
12 やる気がとばしい。	3.32	1.66	3.46	1.54	-1.08	
13 人とコミュニケーションをとることが好きである。	4.27	1.62	4.29	1.56	-0.16	
14 恥ずかしがりやである。	3.71	2.02	3.76	1.60	-0.33	
15 責任感、ねばり強さがあるほうだと思う。	3.84	1.62	4.15	2.73	-1.76	
16 疲労感を感じている。	4.23	1.74	4.36	1.57	-0.97	
17 知らない人の集まりでもすぐに友達をつくれる。	3.36	1.80	3.44	1.70	-0.54	
18 自分の言動に自信をもっている。	3.52	1.64	3.10	1.43	3.29	***
19 自分は価値ある人間だと感じている。	3.32	1.69	3.15	1.50	1.30	
20 将来に希望がもてない。	3.20	1.81	3.34	1.71	-0.93	
21 行動力があるほうだと思う。	3.46	1.63	3.77	1.51	-2.39	*
22 リーダーシップがあるほうだと思う。	2.95	1.65	3.12	1.57	-1.28	

*:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

ニフォームを着ると団結力が増す」の2項目で構成されており、『衣服着用時の感情』を表す因子と解釈した。累積寄与率は53.77%であった。

女子は「衣服の選択」「衣服の手入れ」「衣服着用時の感情」の3因子が得られたが、男子は「衣服の選択」「機能性」の2因子が抽出された。このように衣生活行動には性別で差異がみられる。男子は機能性を追求し、女子は美意識や自己表現を気にしているため、衣服の手入れ、着装時の気分や感情を意識していると考えられる。

3-10 中学生の「独自性（自分自身の意識・性格）」男女間の平均値の差の検定結果

男女中学生の自分自身の意識、性格の22項目の平均値とt検定の結果を表12に示す。最も平均値が高かった項目は、男子は「03 古いものより新しいものを使いたいと思う」、であり、女子は「02 好奇心が強いほうである」であった。一方、最も平均値が低かった項目は、男子は「07 人に見られているとかっこつけてしまうほうである」であり、女子は「18 自分の言動に自信をもっ

ている」であった。

男子のほうが女子よりも平均値が高く、有意差の大きい項目は、「18 自分の言動に自信をもっている」であり、0.1%水準で有意な差が見られた。このことより、女子よりも男子のほうが自分の言動に自信をもっているということがわかる。一方、女子のほうが男子よりも平均値が高く、有意差の大きい項目は、「01 変化への欲求が強いほうである」、「08 自分の容姿を気にするほうである」であり、0.1%水準で有意な差が見られた。また、「07 人に見られているとかっこつけてしまうほうである」は1%水準で有意な差が見られた。これらのことより、男子よりも女子の方が変化に欲求があり、また人の目を気にしているということがわかる。

3-11 女子中学生の「独自性（自分自身の意識、性格）」因子分析結果

次に、女子中学生の自分自身の意識、性格（独自性）を総合的に見るため因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った結果を表13に示す。天井効果とフロア効

表13 中学生の自分自身の意識、性格の因子分析（女子 N=283）

中学生の独自性20項目（自分自身の意識、性格）	因子負荷量				
	I	II	III	IV	V
21 行動力がある	.828	-.005	-.066	-.016	-.072
15 責任感、粘り強さがある	.764	-.045	.297	-.198	.050
22 リーダーシップがある	.683	-.045	-.046	-.025	.035
13 コミュニケーションをとるのが好きである	.450	.098	-.100	.094	.057
02 好奇心が強いほうだ	.401	.315	-.190	.036	-.071
17 すぐに友達を作れる	.399	-.077	-.249	.146	.087
07 かっこつけてしまう	-.142	.806	-.020	-.066	.079
06 他人からの評価が気になる	-.073	.780	.173	-.092	-.094
05 認めてもらいたい	.077	.751	.032	-.105	.009
08 自分の容姿を気にする	.042	.659	.038	.141	-.065
04 自尊心が強い	.126	.513	-.069	-.077	.091
01 変化への欲求が強い	.046	.356	-.138	.189	.202
14 恥ずかしがり屋	.020	.017	.822	.080	.091
09 引っ込み思案である	-.203	.128	.709	.083	.083
11 積極的に意見を述べるほうである	.341	.194	-.432	.024	.014
10 嫌われたくない	.207	.239	.383	.245	-.121
12 やる気がとぼしい	-.148	.022	.082	.686	.074
20 将来に希望がもてない	.128	-.126	.127	.553	-.179
19 自分は価値ある人間だと思う	.062	.082	.125	-.115	.829
18 自分の言動に自信がある	.403	-.169	.036	.067	.485
累積寄与率（%）	22.253	38.158	43.791	47.080	50.253
I 積極性	1.000	.264	-.451	-.128	.521
II 他人からの評価		1.000	.143	.270	.110
III 消極的			1.000	.014	-.292
IV 不安				1.000	-.150
V 自己肯定					1.000

最尤法、プロマックス回転

果のある項目は、尺度項目としてあまり適切とは言えないため削除した。第1因子は、「21 行動力がある」、「15 責任感、粘り強さがある」、「22 リーダーシップがある」、「13 コミュニケーションをとるのが好きである」、「02 好奇心が強いほうだ」、「17 すぐに友達を作れる」の6項目であり、『積極性』を表す因子と解釈した。

第2因子は、「07 かっこつけてしまう」、「06 他人からの評価が気になる」、「05 認めてもらいたい」、「08 自分の容姿を気にする」、「04 自尊心が強い」、「01 変化への欲求が強い」の6項目であり、『他人からの評価』を表す因子と解釈した。第3因子は、「14 恥ずかしがりや」、「09 引っ込み思案である」、「11 積極的に意見を述べるほうである」、「10 嫌われたくない」の4項目であり、『消極性』を表す因子と解釈した。第4因子は、「12 やる気がとぼしい」、「20 将来に希望がもてない」の2項目であり、『不安』を表す因子と解釈した。第5因子は、「19 自分は価値ある人間だと思う」、「18 自分の言動に自信がある」の2項目であり、『自己肯定』を表す因子と解釈した。累積寄与率は50.25%であった。

3-12 女子中学生の「独自性（自分自身の意識、性格）」と「衣生活」の自立の因子得点の相関分析

次に、女子中学生の意識・性格と衣生活の関わりを調査するため、相互の関連を分析した（表14）。関連の強さを***:p<0.001、**:p<0.01、*:p<0.05で示した。

まず、『独自性』の「F I 積極性」因子と「F II 他人

からの評価」因子及び「F V 自己肯定」因子と正の相関があったのは、『衣生活』の「F1 衣服の選択」、「F2 衣服の手入れ」、「F3 服装着用時の感情」の3つの因子であった。積極性で他人からの評価を気にする中学生は自立した衣生活と関連が高いことが示唆された。また、「自己肯定」的な性格の中学生は衣生活においても自立していると考えられる。一方、『独自性（性格や意識）』において「F III 消極性」と『衣生活』「F2 衣服の手入れ」の因子は負の相関がみられた。この意味は積極的な中学生が自立した衣生活と関連があることを示唆する。

3-13 女子中学生の「生活満足度（現在、満足しているもの）」と「独自性（自分自身の意識、性格）」の相関分析

生活満足度の項目と独自性の各因子の因子得点間の関連をみるため、相関分析を行った結果を表15に示した。生活満足度の『II 容姿』、『III 学校生活』、『V 成績』と独自性の『F1 積極性』因子、『V 成績』の満足度と『F4 不安』の因子、『I お金』、『II 容姿』、『III 学校』、『IV 友人関係』、『V 成績』の満足度と『F5 自己肯定』との間で強い高い相関が見られた。

学校生活や容姿に満足している生徒は積極性があることが解釈できる。また、成績に満足している生徒は、不安と負の関連がみられ、将来に不安を抱いていないということがわかる。さらに、周囲との関係や学校生活、見た目、金銭面といったものに満足している生徒は自己肯

表14 「衣生活」の自立と「独自性」における各因子の因子得点間の相関分析

「衣生活」の自立 自分自身の意識、性格		「衣生活」の自立に関する因子		
		F1 衣服の選択	F2 衣服の手入れ	F3 服装着用時の感情
「独自性」の因子	F I 積極性	.312**	.383**	.248**
	F II 他人からの評価	.379**	.255**	.284**
	F III 消極性	.010	-.085*	.047
	F IV 不安	.104*	.013	.088*
	F V 自己肯定	.201**	.233**	.175**

表15 「生活満足度」と「独自性」の相関分析

因子 項目		「独自性（自分自身の意識・性格）」因子				
		F1 積極性	F2 他人からの評価	F3 消極性	F4 不安	F5 自己肯定
「生活満足度」に関する項目	I お金	.057	-.066	-.088	-.101	.203**
	II 容姿	.169**	-.051	-.062	-.109	.165**
	III 学校生活	.177**	-.032	-.095	-.124*	.187**
	IV 友人関係	.148*	-.112	-.011	-.134*	.193**
	V 成績	.167**	.028	-.149*	-.188**	.181**
	VI 制服	.062	.034	-.008	-.123*	.125*
	VII 体型	.073	-.061	-.045	-.067	.148*

定感が強いと解釈できる。自己肯定的な意識を持つことが生活の満足度を高めると言える。

3-14 中学生における制服着用時の気分・感情の可視化

制服着用時の感情について自由記述での回答をカテゴリ化し単純集計した結果、上位1～3位は「気が引き締まる」が223回(34.8%)、「動きにくい」が50回(7.8%)、「学校」が41回(6.4%)であった。カテゴリ間の関係性を詳しく見ると、「学校」と「気持ち」、「学校」と「なる」、「勉強」と「気になる」が同時に回答されており、制服を着ることで学校に行くという気持ちの切り替えができるということがわかる(図2)。

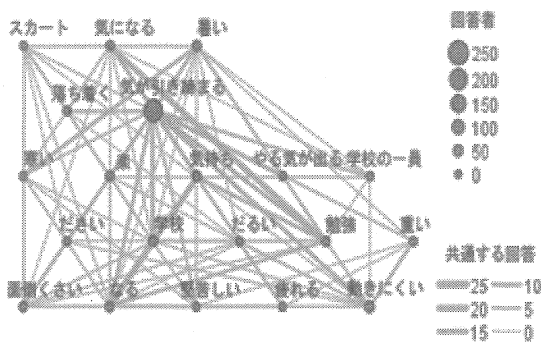


図2 制服着用時の感情(男女中学生全体)

IV. 結言

本研究では多感な時期である中学生に焦点を当て、2017年10月、富山県の中学校男女641名を対象に質問紙調査を行った。実態分析には、富山県の中学生男女における「家庭科(被服・衣生活)」教科に沿った質問内容に構成された。測定尺度項目は、先行研究(孫・村田2018.3)の結果⁴⁾を見直し、基本属性、『生活の満足度(多重回答、7項目)』、『衣生活(6件法、30項目)』、『独自性(自分自身の意識、性格、22項目、6件法)』の実態を検討した。

(1)「衣生活」の自立については男女中学生の衣生活の30項目についてt検定を行ったところ、男子は女子よりも衣服に機能性を求めているということがわかった。一方、女子は男子よりも衣服購入時にマネキンや雑誌、店員のアドバイスといったものを参考にしていたり、流行に敏感であったりすることがわかった。普段からファッション雑誌を読み、衣服購入時には流行を意識しているということがわかった。また、「衣生活」30項目中16項目($p < 0.001$)、5項目($p < 0.01$)、5項目($p < 0.05$)の計26項目に有意差がみられた。

(2)中学生の「衣生活」をより総合的に見るため、因子分析を行った結果、女子の衣生活は「I衣服の選択」、「II衣服の入手」、「III衣服着用時の感情」の3因子が得られた(累積寄与率53.77%)。

また、男子の衣生活を総合的に見るため因子分析を行った結果、「I衣服の選択」、「II衣服の機能性」の2因子が得られた(累積寄与率47.65%)。女子生徒の方が男子生徒より衣生活の自立において細分化していることが示唆された。

(3)「独自性」22項目については、男女中学生の特徴を捉えるため、t検定を行ったところ、22項目中3項目($p < 0.001$)、1項目($p < 0.01$)、3項目($p < 0.05$)のみの計7項目に有意差がみられた。男子は女子よりも自分の言動に自信をもっていることがわかった。一方、女子は男子よりも変化に欲求があり、また、人の目を気にしているということがわかった。

次に、男女中学生の「独自性」を総合的にみるため因子分析を行った結果、「I積極性」、「II他人からの評価」、「III消極性」の3因子が得られた(累積寄与率48.36%)。(4)「衣生活」の自立と「独自性」の関連をみると、「積極的・自己肯定」である生徒ほど「衣生活」の自立も正の相関があることが示唆された。

「積極性」、「他人からの評価」、「自己肯定」の因子はそれぞれ、「衣服の選択」、「衣服の手入」、「衣服着用時の感情」の因子に関連があった。「消極性」、「不安」の因子は、衣生活の因子とあまり関連が見られなかった。これらのことより、自分自身に不安をもっていたり消極的であったりする中学生は、衣生活に対しても消極的であるということが示唆された。

(5)性格が「自己肯定」である生徒ほど「容姿」「友人関係」「学校生活」の満足度が高い傾向があった。また、責任感があり、リーダーシップのある生徒は「容姿」「学校生活」「成績」「友人関係」の生活満足と相関が高い傾向がみられた。

(6)「制服着用時の感情」について自由記述での回答をカテゴリ化し単純集計した結果、「学校」と「気持ち」、「学校」と「なる」、「勉強」と「気になる」が同時に回答されており、制服を着ることで学校に行くという気持ちの切り替えができるということが示唆された。

また、「制服」に関する満足度については、公立男子(23.9%)、公立女子(31.8%)に比べて、国立男子(46.3%)、国立女子(49.2%)の方に満足度が高かった。公立女子生徒は「友人関係」の満足度(60.45)が国立女子(46.9%)に比べて(13.6%)も高い傾向を示しているが、「制服」の満足度は国立女子生徒に比べて(17.4%)も低い。

特に男子生徒の制服に関する満足度は、国立男子(46.3%)に比べて公立男子(23.9%)と、22.4%差異がみられた。着る衣服が心を元気にしてくれることを考えると、改善要素を検討する必要があるのではないかと。

本研究では、富山県における中学生の「衣生活」・「独自性」・「生活満足度」に関する実態分析を行った。今後の家庭科教育(衣生活)教科の一助となることを期待する。

参考文献

- 1) 松尾美江, 滝山桂子, 益本仁雄; 衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析 (第1報) - 学習関心と行動の契機 -, 日本家庭科教育学会誌, 48 (3) :206-215 (2015)
- 2) 下窪美咲, 村上かおり, 鈴木明子; 家庭科着装学習における自己表出の在り方の検討 - 中学生及び高校生の被覆関心とセルフ・モニタリングとの関係性 -, 日本家政学会誌, 67 (5) :255-265 (2016)
- 3) 文部科学省検定済教科書 新編 新しい技術・家庭(家庭分野) 2016年度版, 東京書籍
- 4) 孫 珠熙, 村田 奈緒子; 中学生の衣生活とライフスタイル, 富山大学人間発達科学部紀要, 12(2) : 85-94(2018.3)
- 5) 宮下一博; 大学生の独自性欲求の類型化に関する研究. 教育心理学研究. 39 (2) :214-218(1991)
- 6) 孫珠熙, 近藤信子; 女子学生の被服行動に影響を及ぼす独自性欲求とファストファッションのイメージ構造. 富山大学人間発達科学部紀要, 7(2):107-117(2013)

謝 辞

本研究の調査票の配布、回収に快くご協力を頂いた富山大学人間発達科学部附属中学校の吉田みづき先生、富山市立興南中学校の山崎陽江先生、富山市立西部中学校の近島直美先生に心より感謝を申し上げます。また、調査にご協力頂いた中学生の皆様にも心より感謝を申し上げます。

付 記

本論文は孫の指導の元で村田奈緒子が2017年度に富山大学人間発達科学部に提出した卒業研究のデータを、孫が再分析・再校正したものである。

緒言と質問紙内容については、吉田みづき先生の助言を頂きました。

(2018年8月31日受付)

(2018年10月3日受理)